

| 会議報告書                                                                               |                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議名                                                                                 | 令和6年度 草津市立教育研究所 第2回運営委員会                                                                                                                                                                                                     |
| 日 時                                                                                 | 令和7年2月6日（木） 午後3時33分から午後5時10分まで                                                                                                                                                                                               |
| 場 所                                                                                 | 草津市立教育研究所 2階研修室                                                                                                                                                                                                              |
| 出席者                                                                                 | 委員：8名<br>糸乗 前 、辻 大吾 、木村 弘子 、國松 秀雄<br>鶴飼 裕美 、片山 惠泉 、黒川 清香<br>教育研究所：14名<br>所 長：小林 悦子      副参事：恒松 睦美      副参事：寺内 更三<br>指導主事：岡崎 仁志      研究員：玉木 裕<br>指導員：中谷 仁彦 、 西澤 留美子 、藤井 弘美<br>角 玲子 、 小川 絹子<br>スキルアップアドバイザー：山崎 賢 、仲野 忠克 、糠塚 一彦 |
| 欠席者                                                                                 | 委員：2名    橋本 篤典 、 宮内 弥生 、 角 明美<br>教育研究所：1名    スキルアップアドバイザー    清水 康行                                                                                                                                                           |
| 運営委員会の関連資料 <input checked="" type="checkbox"/> 有（別添のとおり） <input type="checkbox"/> 無 |                                                                                                                                                                                                                              |
| 記録作成者                                                                               | 草津市立教育研究所 研究員 玉木 裕                                                                                                                                                                                                           |

所 長： 大変お待たせいたしました。ただ今より、令和6年度草津市立教育研究所の第2回運営委員会を始めさせていただきますと思います。

会を始めるにあたりまして、小林より一言挨拶をさせていただきます。運営委員のみなさんには、公私共にご多用の中、また最強寒波の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。当研究所では第1回の運営委員会で皆様にお示ししました通り、「こどもまんなか社会」の実現に向けてということで取り組んで参りました。草津市のこどもたちの健やかな成長を後押しすべく、市の市長部局や教育委員会の各課と連携し、学校教育を支援してまいりました。やまびこ教育相談では、不登校対策の充実、スキルアップ事業では、授業改善とICTの活用、夏期研修講座や自己啓発講座では教職員の資質向上、研究奨励事業や地域学習副読本の作成等、教師目線ではなくこども目線を重視し取り組みを進めてまいりました。今年度より“こども”という表記が漢字の“子ども”から平仮名の“こども”に変わっております。そのことも教育研究所を含め、教育委員会各課が進めていっているところであります。このあと今年度の取り組みの実績と課題について説明をさせていただきます。草津市のこどもたちのため委員様より忌憚のないご意見をいただき、よりよい運営の在り方について考えたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。なお、本運営委員会は傍聴席が設けられますこと、会議の内容が草津市のホームページに公開されますことをご了承いただきますようお願いいたします。それではこれより規則第7条により、糸乗会長様による議事進行をよろしくお願いいたします。

会 長：みなさん、こんにちは。どうぞよろしくお願いいたします。第1回目からは、たいへん時間が経っていますので、簡単な自己紹介も含めて開始させていただきたいと思います。教育研究所の方からお願いしたいと思います。

所 長：それでは教育研究所より自己紹介したいと思いますので、順番に沿って自己紹介をしていく形でお願いいたします。教育研究所所長の小林でございます。

<自己紹介>

恒松副参事・寺内副参事・岡崎指導主事・玉木研究員

やまびこ教育相談室担当…中谷指導員・西澤指導員・藤井指導員・沢本指導員

角指導員・小川指導員

スキルアップアドバイザー…山崎先生・仲野先生・糠塚先生

糸乗会長、辻校長、木村教頭、鵜飼教諭、片山委員、國松委員、黒川委員

会 長：どうもありがとうございました。それでは運営委員会の方を始めさせていただきたいと思います。御協力どうぞよろしくお願いいたします。まずは運営委員会の出席者の確認ということなのですが、よろしいでしょうか。

研究所：本日7名になります。なお、橋本様、角様、宮内様に際しましては、本日欠席の連絡をいただいております。

会 長：運営委員が半数を超えているということで、本運営委員会は成立いたします。それでは議事進行を進めてまいります。手元の資料2番目のところ、「令和6年度 事業の実績と課題について」ということで①～⑤までありますが、一括でご説明をよろしくお願いいたします。

令和6年度 事業の実績と課題について各担当者より説明

※別添資料（1）（2）に沿って説明

- ① 研究所の事業概要および研修事業（指導主事）
- ② 調査研究に関する事業（研究員）
- ③ 教育相談に関する事業およびやまびこ教育相談室について（指導員）
- ④ スキルアップ事業（所員）
- ⑤ その他（指導主事）

会 長：どうもありがとうございました。それでは質疑という形に入らせていただきたいと思います。御質問や御意見も併せてお伺いしたいと思います。どなたからでも結構でございますが、いかがでしょうか。

委 員：夏の研修講座と自己啓発講座などいろいろな講座を実施されていて、多くの先生方が参加されていてすごくいい機会だなと思います。報告でも参加者が1033名で満足度も

98%であります。課題として人数の偏りがあると書かれていて、自己啓発の方も思うように人数が集まらなかったとありますが、講座の内容というものは、研究所さんがいろんな分析の中でこういうのをやった方がいいとある程度選定されているのか、または受講・対象とされる方々のヒアリング等を基にどういうことを求めているのかっていうのをベースにされているのか、どちらかということはあるのでしょうか。

研究所：毎年研修講座が終わりましたら、市内の先生方にアンケートを出していただいています。

その中で評価の高かったものやもう少し発展的に聞きたいというような内容のものについては継続で次年度に実施しているものもあります。そしてある程度予定を決めましたら、教育委員会4課あるのですが、関係各課の課長と教育長を含め教育部の理事も合わせまして、教育研究所としては、こういう研修を考えているということで提案させていただいております。例えば今年度でしたら教育長の方から消費者教育とか新しいニーズに合わせた研修をもう少し広げてみてはどうかという御意見、あと学校教育課でしたらスクールESDをもう少し続けてほしいとか、そんな意見も踏まえまして、総合的な判断いたしまして、今年度16講座開催したところでございます。

委員：ありがとうございます。その際にやはり新しいものって先生方に結局“どういう内容なんだろう”ということが少し伝わりにくかったら、参加するというよりは次でいいかなとなってしまったことが、偏りになってしまった原因ですか？参加者が少なかったというのも、この新しいものがあつたからということなののでしょうか？

研究所：本当におっしゃる通りで、例えば消費者教育であつたり、自分づくりであつたり、そういったものに関しては直接今すぐに何かをしなくてはいけないというものではなくて、広く知見を広げるような、今でしたら闇バイトとかそういったこともあるので、そういったことも総括的に今後学んでいってもらいたいなと思ひまして、きっかけを作ったのですが今年度の反省でございします。同じようにウェルビーイングな学校づくりだとかこどもまんなか社会についてもやっぱりまだまだ学校現場では抽象的なテーマ過ぎて具体的に何をやったらいいのかとかどういう話が聞けるのだろうかとかそういうことをもう少し事前にプレゼンしておけばよかったかなと思ひており、また次年度に繋げていきたいと思ひております。

会長：当該の内容につきましては、毎年ご苦労されているのだろうなとは思ひます。夏期研修と自己啓発講座の割り振りと言ひますか、自己啓発講座の方は平日に行っているという特徴があるということですが、どちらに割り振るかについてもご苦労されているのだろうなという風に聞かせていただきました。

委員：おそらく県でもいろいろと講座が開催されているのではないかとと思ひますけれども、先ほどの説明にも4市で交流をされているとありましたが、この講座に関しては県や国など大きいものではなく4市で相互に交流があり、他市の講座に向かえるようになっているのか、先生方のニーズに応じて連携だとか、そういうことがあるのか教えていただきたいです。また今考えられているのか、これから考えるのかについてもあわせて教えていただきたいです。

研究所：貴重なご意見をありがとうございます。大きな研究発表大会等につきましては、湖南4

市だけではなく県内の18教育研究所がございまして、そこから案内等がやってきていますので、学校に案内することもあります。ただどうしても出張に出にくいという事情もありまして、草津市内の研修であってもなかなか出にくい、ましてや他市町が開催される研修に学校として出せない状況もありますので、積極的に当研究所としまして各学校に案内を広く配布するということはストップしているという状況でございまして。今後本当に良い研修等がありましたら、教育委員会全体で協議しました上で案内もしていきたいと思います。ありがとうございます。

会 長：時期的には、夏期休業中にたくさんいろいろなところでやられているんだろうなということは想像できますし、それが各市で特徴があるということになると、もしかしたら他のところにも行ってみたいということもあるのかもしれないですね。時期はだいたい集中しているような感じもしますけど。

委 員：それに関連付けてですが、先生方の「こういう講座を受けたい」というニーズはある程度反映できているのでしょうか。それよりもなかなか多すぎて、これを絞り込むのは難しいなどそういったこともあるのでしょうか。

研究所：おっしゃる通りでございまして。例えば今年度でしたら、学力向上は国語と英語をさせていただきました。そうすると、社会とか理科とか数学の先生とかが来づらいし、社会とか理科もやってほしいというようなニーズは毎年あります。なので、来年度については、そのような教科も広げる方向で検討していかなければいけないなという風に考えております。理科については2、3年前までは、現地学習ということで川の学習もやってきていたのですが、コロナがあったことで一旦研修がオンラインに変わったあたりから現地学習もなくなってきました、コロナも収束してきたことに伴いまして前のように戻せるように手探りですが進めていきたいと思います。ありがとうございます。

委 員：ここに書いている参加者全体の1033名というのは、たぶん複数回参加されている方もおられると思うのですが、小中学校の全員の分母として、何割くらいの先生方がこういう講座に参加されているのですか？

研究所：多い方は2つも3つも受講されていますし、少ない方は0という方ももちろんおられます。それはなぜ0かというと、夏休みの7月の20日ごろから8月のあたまでやっているのですが、特に中学校の先生方は部活のブロック大会があり、それに勝つと、次に県大会がやってくるのが7月の末になり、それを突破すると近畿大会になると8月の中旬くらいになるのです。負けてしまいますと講座にも参加できますが、勝ち続けていきますとどうしてもやはりこどもたちの指導もありますので、熱中症の心配もありますので顧問が不在ということもできませんので、中学校の先生方は参加しにくいなと思っています。どちらかというと小学校の先生の方が参加率が良く、高い状況が続いております。

委 員：そちらに関連してなのですが、夏期研修講座・自己啓発講座が終わってからアンケートを取られているということなのですが、それは講座が終わった直後に取られているということなのですか？もし可能であれば、聞いた研修をどのように授業に活かしたか、どう自分の中でかみ砕いてこどもたちに伝えたかということ、時間を空けて、例えば半年後とか一年後とかに自分の中でどう活かしたかということ、共有できる場があると、

より講座が中身のあるものになるのかなと思いました。

研究所：ありがとうございます。今おっしゃってくださったことはその通りだと思います。例えば夏休みのスキルアップ研修というのがスキルアップアドバイザーを中心にやっているのですが、夏休みに作った指導案を2学期に活かしたりもしていますので、今言っていたようにどう活かしたかというのは、その時はみなさん感動してQRコードを読み取ってその場ですぐに打ち込んでいただけるのですが、実際に活きているかどうかについては今後大切なことだと思いますので、活かしていきたいと思います。ありがとうございます。

会 長：リピーターがおられたら、前年度の効果もわかるのでしょうか、比較的新しく受けられる方の方が多いのですかね。そのあたりはどうでしょう。

研究所：そうですね。例えば、弁護士の先生の生徒指導の話なんかは、リピーター続出で一度聞いたら、“次も聞きたい”ということで、毎年70人、80人くらい、学校で生徒指導を担当してくださっている方などが中心にリピーターのようにずっと来ていただいています。特別支援教育の分野や特別支援学級の先生方はみなさんがリピーターで、講師の先生はもう何年も担当してくださっているのですが、ただそれが良いという反面、新しい分野も開拓していかなければいけないということで、検討課題であるところではございます。

会 長：他に御意見とか御質問とかどうでしょうか。

委 員：講座の大きな柱として人権に関わる講座を毎年行われていると思うのですが、今年は部落差別問題学習についてということで、そのテーマに関してどういうものだったか内容を聞かせたいです。というのは、新しい人権に関わる課題がそこにあるかどうか、それを聞きたいのです。

研究所：今年度実施しました部落問題学習につきましては、県内ではなく隣の三重県で活動されている方から、高校生に対するアンケート、部落問題学習を学んできたかどうか、それが自分に活かしているかどうか、そういった現在の高校生たちがきちんと学んできたはずなのに、それがしっかりと自分事となっているかどうかの調査結果について報告してくださいました。そうすると、きちんと自分の中に落ちている子どもたちが教員が思っている以上に少ないというような事実が出てきましたので、私たちが教えたつもりになっているのではないかという課題を与えていただいたような講演でありました。また部落問題学習だけではなく、性の多様性については喫緊の話でもありますので、昨年、今年度に関しては性の多様性についての研修講座も並行して続けているところです。

委 員：先ほど、「新しい」と言いましたが、例えば無意識の偏見「アンコンシャスバイアス」とかちょっとした暴力とか、そういうような言い方で表されたりしますが、少し聞いていると教育の場でも活かせる内容ではないかなと思っています。そういうようなあたりをまた来年も活かしたら参考にさせていただきたいです。

研究所：はい、ありがとうございます。

会 長：そのほか、質問とか御意見とかでもいいですが、ないですか。

委 員：わたしは中学校におりますけれども、先ほどのやまびこのお話で、相談件数がそんなに増えてはいないということだったのですが、今年校内の登校支援室ができて、そうい

った体制づくりからのことなのかなど、いろんな見立てをされていましたが、本当にその通りだなと思っているところがあります。ただやっぱり本校でも多くの教員が時間割を決めて、ステップルームと言うのですが、登校支援室で多くの子どもたちと関わっていきまして、私もその中で一緒に子どもたちとお話をしたり勉強したりしているのですが、こういった居場所というのが各校にできたということは本当に大きいなという風に思いますが、学校以外の相談場所もとっても大事なことだと改めて感じました。本校生徒もこちらにお世話になっておりますので、そのありがたさをしみじみを感じているところです。すいません。感想になります。

会 長：調査の方は登校支援室についてしていただいている、やまびこの教室に関してもお話ししていただきましたが...いかがでしょうか。

委 員：調査員による調査研究についてなんですけども、これはどのような形で公表されるのですか。そのような機会はあるのでしょうか。

研究所：夏休みの夏期研修講座の研究発表大会の中で、一年間の取り組みを、今年度の玉木の取り組みにつきましては、令和8年の夏休みに発表する予定でございます。そして最後研究としてしっかりとまとめたものを、今回はA4、一枚なのですが、しっかりとまとめたものを県の総合教育センターの方にも共有させていただいて、提出をする予定でございます。

委 員：研究の中で、3校の比較と言いますか、登校支援室の活用の中身が、いろいろ工夫をされていたので、良いところはすぐに真似できるようにと言うか、他校が見習うことができるように極力早く広く伝えられるといいのかなという風に感じました。

研究所：ありがとうございます。

会 長：登校支援室、やまびこなど、それぞれが取り組みとして行われているのはほんとうにすごいなと感じました。ちなみにこういう制度ができているのは他にあったりしているのですか？そういう情報も入れてされているのか、草津市独自でできているのかということところをちょっと聞き逃してしまったので、教えていただければと思います。

研究所：登校支援室というのは国の施策のひとつでありまして、国全体では校内教育支援センターという位置づけになっていて、それに文科省の概算要求も取っているところです。でも国全体としては手を挙げた市町に入るのですね。そこで国の補助をもらって校内教育支援センターができているというのが大概の自治体なんですけども、なんと草津は市長のおかげで必要なら作ろうではないかと、部屋だけ作ってはだめだということでやっぱりそこには教員がいて、子どもを出迎えることが大事だということで、今年度から全小中学校20校とも作られたところです。これは草津独自の施策になります。

会 長：ありがたいですね。

委 員：私の周りにもなかなか教室に入れないお子さんはいるのですが、やっぱり登校支援室ができて、そこなら行けるというお子さんがおられたので、やはり早い段階で全校にこういう場所を作っていただいたのは、ありがたいことだなという風に思います。

会 長：個人的なことになるのですが、5ページに書かれているこの登校支援室の課題の一番上のところなのですが、児童生徒の状況は様々であり登校支援室内での統一した支援が難しいという風におっしゃっていて、これって矛盾しているというか、それぞれの子ども

たちにはそれぞれの支援が必要なので、なかなか統一した支援っていうのは難しいのではないのかなと思ったのですが、いかがでしょう。もっと大きな感じの支援なのかどうなのだろうと言う風には感じるんですけど、いかがでしょうか。ちょっとしたこともしれないですが...

研究所：統一した支援が難しいということなのですが、この研究では登校支援室の在り方というテーマで考えておりまして、もっと大きな枠組みと言うか、登校支援室はこうあるべきだということを出せたらいいなと思っていたのですが、実際に行ってみると、登校支援室はこうあるべきだということは難しいなと感じるところがありました。それは学校に来ることがやっとな子も、学校には来るけど授業によっては登校支援室で過ごす子もみんながひとつの教室で過ごしているので、単純に“授業行っておいでや”というふうには送り出せないだとか、あなたはいいけどあなたは教室行ってきたさいとか、それぞれの子がいる中で、登校支援室はこうあるべきだということを出すのは難しいなということを思いました。やっぱり一人ひとりに目を向けてあげて支援していくべき場所なんだなということを改めて感じたということです。

会長：先ほど皆様もおっしゃっていたように事例と言う形で共有出来たら、互いにこういう場合はこういう対応が今までありましたみたいな形の共有はできるのかなという風には感じましたが...

委員：せっかくですので...質問でもなんでもなく、現場の状況だけということで少しだけ。

9ページのスキルアップアドバイザーの部分のところで、本校ではスキルアップアドバイザーの先生方にはお世話になりまして、それぞれが授業力の向上に向けて、ベタな言い方ですけど、目が覚めたというか、新しい気づきがあったという部分とか、面談をしている中でも教えていただいたことを基にしてこういう授業を作っていきたい展望を喋っていただく本当に頼もしい先生が育っているなということで、ありがたく思っています。ICTの方につきましても、これまで育児休暇を取られていた関係でお休みをされていた先生がいたので、いわゆる端末とは程遠い中で久しぶりに復帰されたので、すごくICTの方でお世話になって、美術の先生なんですけども使い始めて、やっぱり新しい授業の展開が見えてきたということでその先生も初めの一步を踏み出すのは大変やったと思うのですが、すごくいい取り組みでありがたかったと思います。で、そんな中で、こどものICTスキルがびっくりするぐらい上がっていて、教師指導型の授業は脱却しなアカンということはすごく僕も大事やとは思ひ、こどもの可能性を広げていくことはいいのですが、あまりにも知識が上回ってきている現状にありまして、この間でもパワーポイントの製作を発表の中でさせる授業をしてくれはったところがあったのですが、教えもしていないのにキャンバーを使ったりだとか、生成AIだとか、そういうところにどんどん入り込もうとしている子もいます。僕たちから言いますと、もう全然見向きもしない昔のコンピュータールームに置いてあるようなコンピューターを見て、「先生、これをどうにか活かせることはできないでしょうか。使えます」ということで、Windowsを入れて、こうこうこうして～と展望を喋ってくれる子もいます。やっぱりそのこどもがどんどん成長してくれるのはありがたいことなのですが、それを見守るこちらがあまりにも置いて行かれていくというようになってしまうのは良くないので、ICT

のスキルアップをしていくことはこれからすごく大事になってくるということを感じています。

会 長：想像できそうで、その上をいっているんじゃないかと思いますね。ありがとうございます。

委 員：本当にそうだと思います。僕は帰国子女でアメリカの小学校にいたのですが、帰国してからは日本の学校に行っていて、その時もですが英語の資料とかでもインターネットは当時当たり前のように使っていました。自分でリサーチをしてプレゼンテーションをするということが当たり前でした。今のこどもたちは YouTube とかを自由に自分でどうアクセス、操作すればいいのかということを得ていくと思うので、本当にある意味手放しにしちゃうと怖い方向へ行きかねないということがあるのですが、逆に言うと、海外の中学生ではそれは普通に行われていることです。これからのこどもたちが高校、大学に行った時には、もし海外でグローバルにやっていたらと思った時にはそのレベルについていけないといけないというふうには思います。だからやっぱりなかなか難しいところではあると思うのですが、教師たちの力を上げていくということはこどもたちの可能性を広げていくという意味でも、大変ですけど努力していかなければいけないのだなと私も感じています。意見になりましたけど。

委 員：ありがとうございます。今 ICT の研修等について言っていただきましたが、例えば本校でしたら、とても ICT に長けた教員が中心になって、教育研究所の講座で学んできたことを、みんなが研修に行けたらいいのですが行けないので、ちょっとした時間を使って、校内でのミニ研修とか選択講習みたいな、たくさんの時間ではないのですが、打ち合わせの後とか会議の前後とか、そういった時間を少し作って講習という形で教えていただいたり、みんなでこういう使い方ができるのだとか、こんな活用の仕方があるんだとかをみんなで学んだりできる時間は作っています。本当にこどもはすごいです。1年生のこんな小さい可愛らしい手でもシュッシュッと扱っていくので、これからの時代は ICT が使えないときと就労とかお仕事にも就けないというような時代が来ていると思うので、これは基礎的な力のひとつの時代になったのだなということすごく感じています。別室で、登校支援室で学習をしている子にとってもタブレットでの学習、個別学習というのはすごくありがたいところがあって、ドリル学習としても活用できますし、割とやっぱり得意な子が多いです。ですので、タブレットを活用して、人が付けないときには、そういったドリル学習なんかも活用しながら待ってもらったり、人が付ける、先ほどもおっしゃってましたように草津市には人をひとりつけてもらいましたので、本当にそれがありがたくて、今までは教員で教育相談の担当がおりましたが、やっぱり授業にも行かないといけないし、他のこどもへの対応があったりとか学校の中での他のお仕事があったりとかいう中で、やりくりをしての別室登校への対応ということですからすごく苦慮していたのですが、そこに人をひとりつけていただけたということは、ほんとうに今年度ありがたいなということを実感しています。学習を自習ではなくて教室でやっている授業と同じことが別室でも個々に進められたりだとか、ちょっと教室に戻ってきたい子については別室ではなくて、教室と一緒にいて行って、その先生が横にいてくれていることで安心して教室の中に入れて、一日 6 時間ある中で 1 時間は先生と一緒に



に教室でみんなと一緒に学ぶことができたとか、本当にその子その子に応じてなのですけれど、今日はどうやって進めていくかを本人と相談してスケジュールを立てて、登校支援室と教室に戻っていける子は教室で過ごす時間を少しずつ増やしていったという形でやっていっています。本当に場所と時間を与えていただいたのはすごく大きくて、来年度からも引き続きその時その時、その子その子に応じて状況は変わっていきますけれども、一緒に相談しながらやっていけるということはすごくありがたいなと感じています。

会 長：今年度に関しまして、他はいかがでしょうか。

委 員：「わたしたちの草津」は大変よくいろいろ検討された素晴らしい教材だと思っています。実は私の校区で、葉山川の話をしてくれと言われたのですね。どういうことかいろいろ聞いたら、もともとは天井川だったのですね。その代表例では草津川ですね。ここにでてあるのですが、葉山側もその通りで、災害と関連していろいろと取り組まれて、そういうことを学習していきましょうということであったのですね。ただいまひとつ昔の様子だとかそういうことを全然知らないという子が多かったのです。学習した後の感想をこどもたちに聞いたら、ものすごく印象的だったようです。家でも話をしたら、お父さんもお母さんも知らないでいたということだったそうです。今ある草津は知っているけども、今までどのような経過でどのような苦労をして今ようになったのかというところと全然知らないでいたようです。そういった意味でこの「わたしたちの草津」というのは参考になる、草津を知るためには大事なものだと思います。イメージとしましては、小学校3年生4年生あたりをイメージされて作られているのだと思いますが、おそらくもっと高学年でも非常に参考になるような、総合学習でも参考になるようなものになることを意識して作られるといいのじゃないかなと思うのですが…すこし気が付いたところを話しますね。実はこの写真なのですが、最初のページにあるものすごく大きな草津の写真なのですが、西側から撮っているのですよね。これをパッと見たら、こどもたちは「意外と草津市は田んぼが多いのだな」とそんな感じも受けるかもしれませんね。これで偏った印象になってしまうかもしれないですね。逆に東側から撮った写真があると、草津市の客観的な状況というのがもう少しはわかるんじゃないかと思うんですね。そういうようなところで、これを作られるときの微妙なところで、こどもがどういう感じを抱くかということも踏まえながらじゃないと、先ほどもちらっと言いましたが、無意識の偏見に繋がる可能性があるんじゃないかと…写真だけでもそういうことがあるんです。その他にも記述なんかにも。たくさん流れてくる川は100いくつある川は書いてあるけども、出ていく川は何も書かれていませんね。水害や災害などそういうことについては洗堰の学習で伝える必要があるんじゃないかなと、いろいろと思ったら、これはすごく精選されて限られたページで書いてあり大変ですけども、いろんなダイバーシティと言いますか、いろんなものを見て検討していただければと思います。ありがとうございます。よろしくお願いします。

研究所：ありがとうございます。

会 長：他いかがでしょうか。奨励事業など触れられてはなかったですけども、時間も結構来ていますので…もしなければ6年度の承認を運営委員会でしていかなければいけないので、

採決をさせていただいてもよろしいでしょうか。そのあとに7年度の話もありますので、まずはここで令和6年度の今説明のあった事業の成果と課題について、御承認いただけますでしょうか。いただける方は挙手をお願いいたします。

委員全員が挙手

会 長：ありがとうございます。それではみなさま挙手いただきましたので、承認いただいたということにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。  
次にレジュメの3番目になります。令和7年度の事業計画についての説明をお願いします。

令和7年度の事業計画について説明

会 長：ありがとうございました。いろいろとご質問とかご意見の内容も踏まえてということでの説明いただきましたが、いかがでしょうか。来年度の計画というところで...  
十分御意見いただいたと思いますので、それに則った事業計画をしていただくということで、質疑をしなくてはいけないのですが、よろしいでしょうか。  
それでは採決の方させていただきたいと思います。令和7年度の事業計画について御承認いただける方は挙手をお願いいたします。

委員全員が挙手

会 長：ありがとうございます。それではみなさんの承認をいただいたということで、ありがとうございます。  
それではこれを持ちまして議事の方を終了とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

研究所：糸乗会長、ありがとうございました。それでは最後になりますが、閉会にあたりましてお礼を申し上げたいと思います。本日は本運営委員会に御出席いただきまして、また慎重なる御審議をいただきまして、また御承認もいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。よりよい教育研究所の運営について、今後も精進してまいりたいと思っております。1点だけお願いがございます。今、指導主事の方から説明がありました来年度の事業につきましては、3月議会の承認が得られませんと事業には載せていくことができませんので、運営委員の皆様の方に胸に留めておいていただいて、来年こんなことがあるのかもしれないくらいで止めておいていただけると幸いです。次年度より、第4期草津市振興基本計画がスタートしてまいります。次期振興計画は、これまでの良い取り組みを残しつつも改善・改革を厭わず草津市の教育は進んで参りますので、教育研究所も貢献していきたいと考えております。今後も引き続き当研究所の様々な事業に際しまして、御理解御支援いただきますようお願いいたします。挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

これを持ちまして令和6年度草津市立教育研究所第二回運営委員会を終わります。お気をつけてお帰りくださいませ。ありがとうございました。